

会 議 録

会 議 の 名 称	第 5 回 小 金 井 市 地 下 水 保 全 会 議
事 務 局	環 境 部 環 境 政 策 課 環 境 係
開 催 日 時	平 成 1 9 年 3 月 2 2 日 (木) 午 前 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 1 5
開 催 場 所	市 役 所 本 庁 舎 第 一 会 議 室
出 席 者	別 紙 の と お り
傍 聴 の 可 否	○ 可 ・ 一 部 不 可 ・ 不 可
傍 聴 者 数	1 名
会 議 次 第	1 開 会 2 議 題 (1) 前 回 の 会 議 録 の 確 認 に つ い て (資 料 1) (2) 小 金 井 市 中 間 処 理 場 事 務 所 棟 新 築 工 事 に つ い て (資 料 2) (3) 住 宅 建 設 に 係 わ る 地 質 調 査 に つ い て (資 料 3) (4) 地 下 水 (井 戸) 水 位 測 定 結 果 に つ い て (別 紙) (5) そ の 他 3 報 告 事 項 (1) 平 成 1 7 年 度 版 環 境 報 告 書 に つ い て 4 次 回 の 地 下 水 保 全 会 議 の 日 程 に つ い て 5 そ の 他
会 議 結 果	別 紙 の と お り
発 言 内 容 ・ 発 言 者 名 (主 な 発 言 要 旨 等)	別 紙 の と お り
提 出 資 料	資 料 1 第 4 回 小 金 井 市 地 下 水 保 全 会 議 議 事 録 資 料 2 小 金 井 市 中 間 処 理 場 事 務 所 棟 新 築 工 事 資 料 3 地 質 調 査 報 告 書 別 紙 地 下 水 (井 戸) の 水 位 測 定 結 果 報 告 書
そ の 他	資 料 は 、 情 報 公 開 コ ー ナ ー 、 図 書 館 、 議 会 図 書 室 に あ る 議 事 録 に 添 付 し て あ り ま す 。

第5回 小金井市地下水保全会議議事録

日 時：平成19年3月22日（木）午前10：00～11：15

会 場：本庁舎 第一会議室

■ 出席者

(委 員)	小倉 紀雄 会長	山田 啓一 副会長
	土屋 十囀 委員	池田 茂 委員
(事務局)	環境部 天野部長	環境政策課 深澤課長
	環境係 鉄谷係長	環境係 大久保副主査
	環境係 立川主事	環境係 板本
(欠席者)	風間 ふたば 委員	
(傍聴者)	1名	

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 前回の会議録の確認について（資料1）
 - (2) 小金井市中間処理場事務所棟新築工事について（資料2）
 - (3) 住宅建設に係わる地質調査について（資料3）
 - (4) 地下水（井戸）水位測定結果について（別紙）
 - (5) その他
- 3 報告事項
 - (1) 平成17年度版環境報告書について
- 4 次回の地下水保全会議の日程について
- 5 その他

■ 審議経過（議事録）

1 開会

小 倉 会 長： では、第5回の小金井市地下水保全会議を始めさせていただきます。
議題はお手元にあるような次第となっています。

2 議題

(1) 前回の会議録の確認について

小 倉 会 長： まず、前回の会議録の確認ということですが、修正等がありますか。

深 澤 課 長： すみません、今後の会議録の公開についての確認ですが、今回のように、事前にメール等で確認をお願いしまして、次の会議開催時に了承していただき、公開するというようにしたいと思いますがよろしいでしょうか。

小 倉 会 長： はい、わかりました。

では、前回の会議録ですが、承認ということによろしいですか。

山 田 副会長： 一箇所だけ訂正があります。
誤字で「通水性」とありましたが、「透水性」です。
深 澤 課 長： わかりました。確認して訂正します。
小 倉 会 長： はい、他にはありませんか。なければ次に進みたいと思います。

(2) 小金井市中間処理場事務所棟新築工事について

小 倉 会 長： では、(2)の議題について、ご説明をお願いします。
深 澤 課 長： 議題(2)について説明を行った。(説明内容省略)
小 倉 会 長： はい、ありがとうございました。
新しいシステムで行うということですが、何かご意見、ご質問はありますでしょうか。
山 田 副会長： これは、地熱の調査はやったのでしょうか。100メートルまで入れる必要があるのかどうか。水温ですと、20メートルくらいで15度近くになりますので。どのような熱的な設計をしているかわかりませんが。40ミリといわれましたが、外径は160ミリですか。
深 澤 課 長： 外径の大きさは井戸を掘るような形でパイプを通しますが、あとで抜いて、充填砂で埋め戻すということです。
山 田 副会長： 結果的には、40ミリが8本入るのですね。
深 澤 課 長： はい、そうです。
山 田 副会長： たとえば、不圧地下水が気圧の方に引っ張られてしまう、ということはないですか。充填砂が100メートルにわたって入るとすると、途中に不透水層がいくつかあるわけですから、それが通過点になってしまうということはないですか。
小 倉 会 長： 100メートルですので、途中に透水しにくい層が何枚かありますね。そこを掘削して中に入れることになるので、その辺の水の流れがどうなるのかわかりませんが。
場所はどの辺になりますか。
深 澤 課 長： 滄浪泉園の北側です。距離は100メートル弱でしょうか。
小 倉 会 長： 別紙の、地下水水位測定結果報告書の中にある地図でいうと、何番のあたりですか。
天 野 部 長： 2ページの地図ですが、4番の所です。
小 倉 会 長： そうですか。
山 田 副会長： デリケートゾーンですね。掘るのを、20メートルくらいにするとか、・・・できればやってほしくないですね。環境にやさしい主旨は賛成ですが。
小 倉 会 長： 予定している所は、市で計画された事業になるのですね。
深 澤 課 長： はい、19年度予算で計上されています。
小 倉 会 長： どういう形でヒートポンプとなったのか、地球温暖化対策ということですが。山田先生がおっしゃったように100メートルまで掘るとなると、水の流れに対して影響があるのでは。
山 田 副会長： これは実施計画に入っているのですか。

深澤課長： はい。

小倉会長： 熱のほうでは良いのでしょうか、地下水のほうにとっては少し問題があるのではないかとということで、地下水の流れ等は考慮したのでしょうか。

深澤課長： 経過的に今日、保全会議のほうにお示ししてしまして、2月の議会のなかで、このような事業を進めていくが地下水に影響があるかどうか、保全会議のほうのご意見を聞くべきでないかということでしたので、議題としてお出ししました。

小倉会長： そうですか。どうでしょう、データの的には不十分なので判断するのは難しいと思いますが。

池田委員： 私は専門でないのですが、通常の井戸ですとケーシングがあって帯水層と透水層を貫くことがあります、ケーシングでその周囲をすかさずかにしなければ、上の帯水層から筒の周りを通して下にいく、というのは考えにくいと思うのですが、この場合は砂ということですので、そういう意味では、上の帯水層から下の帯水層に通じやすくなってしまわないかと思います。

もうひとつは、周辺の井戸を掘ったときのデータを参考に検証できないかと思うのですが。

小倉会長： はい、ありがとうございます。

これは、掘った後をセメントでかためるのは、表層から5メートルですね。その下は、砂になりますね。おそらく10メートル前後には、不透水層が確実に1枚ありますが、そこを貫くとどうなのでしょう。

土屋委員： これは、中に不凍液が入るということですが、それが漏れたりすることは無いのですよね。それが心配ですから。

深澤課長： はい、無いです。

小倉会長： そうですね、熱交換ということですから、無いでしょう。

土屋委員： それは半永久的に無いのですね。

深澤課長： はい。

山田副会長： いずれにしてもデリケートなところなので、できればどういう方法にせよ、やめておいてほしいですね。エネルギーの問題は、別の方法でアプローチしてもらった方がいいと思いますが。

小倉会長： ソーラーと風力も使って、さらにこちらも、ということですね。これがどの程度効率がいいのか、結構リスクがあることに対して、費用も含めて、どれだけ価値があるのかどうかですね。

もうひとつは、地下水への影響が懸念されるので、地下水位に関しては、周辺のボーリング柱状図のようなものがないと、判断しにくいということだと思います。

土屋委員： これは地下水の委員会なので話がずれますが、太陽光発電はかなり可能性が高いと思いますが、風力発電は、日本の場合はほとんど海岸端でしか風力を有効に使えないのです。群馬のからっ風ですら、効率が悪かったですから。色々売り込みはあると思いますが、風力の場合は考えた方がいいですね。

深澤課長： はい、おっしゃるとおりですね。

現在、市営グラウンドのほうで風力は1か所ありますが、やはり足りませんので、太陽光も併用しています。

山田 副会長： 中途半端な規模だったらかえって維持管理が大変になるだけですね。でも、宣伝効果みたいなものはあります。

小倉 会長： そうですね、新エネルギーを使用しているといったことですね。

では、具体的なデータがないので、この場では判断できないのですが、地下水の流れ、保全に対してはあまり好ましくないということで、むしろ他の新エネルギーを導入してほしいということでもよろしいでしょうか。

山田 副会長： どうしてもやるというなら、もっとずっと北のほうでやるのはどうでしょうか。

小倉 会長： そうですね。これは中央線のすぐ北側ですし、滄浪泉園と井戸の13,14,15番にも関係ありますね。今までの地下水の流れの方向から考えて、100メートルまで掘削することにより、場所的に地下水の流動に影響がある可能性があるため、もう一度検討してほしいということでもどうでしょうか。

どうですか。よろしいでしょうか。環境政策課としてはいかがですか。

この中間処理場の所管はどこですか。同じ環境部ですか。

深澤 課長： はい、そうです。

では、地下水保全会議のほうからそのような意見をいただいたということで、内部で調整させていただきます。市としては、あらゆる方策で地球に対してやさしい政策をやっていきたいということですので、内部で検討しまして、次回の会議で結果を示したいと思います。

小倉 会長： はい、わかりました。

お願いします。

(3) 住宅建設に係わる地質調査について

小倉 会長： 次の議題にはいります。事務局から説明をお願いします。

深澤 課長： 資料3に基づき説明を行った。(説明内容省略)

小倉 会長： 地下水影響工事の対象外の地域ですね。

深澤 課長： はい、そうです。ボーリング調査のデータが出されたので、資料としてお出ししました。

小倉 会長： はい、わかりました。

深澤 課長： これを見ますと、4メートル80センチくらいで水位がありますね。

小倉 会長： そうですね。何階建てくらいでしょうか。建物の規模等はわかりますか。

深澤 課長： 10階建てくらいだと思います。

小倉 会長： そうですか。具体的な工法等の資料はないのですね。

深澤 課長： はい、地質調査のものだけです。今の条例では、地質調査を行ったときには、そのデータをいただきたいというものなので、工法等のものはありません。

小倉 会長： 規模など、どのような建物かというものは無いのですね。

深澤 課長： 書類そのものはありますが、基礎のデータは求めていません。ただ、地下水影響工事であれば、求めていきますが。

土屋委員：冬場にしては地下水が高いですね。データとしては仙川とJRの間は前から高いですよ。

山田副会長：そうですね。たぶん5月くらいが一番低いですね。

土屋委員：今までのデータでは、地下水のマウントがある感じですね。

深澤課長：段々このようなデータを集めて、地図上におとしていって整理していく必要があるかなと思います。

山田副会長：ええ、有効ですよ。

小倉会長：そうですね。

このあたりに、水位測定の井戸はありますか。この資料だと、どこに近いのでしょうか。

天野部長：7番ですね。

小倉会長：そうですね。流れからいくと、崖線のほうに直接いくということはあまり無いのでしょうか。かなり浅い地下水が、東の方にいくのは間違いないでしょうけれども、崖線の湧水のほうに、この地下水は直接つながってはいないのですか。

山田副会長：水位が高いときは、いきますね。たぶん、野川公園の湧水でしょう。

土屋委員：この杭は何本くらいかわかりますか。

深澤課長：そこまではわかりません。

小倉会長：このような地質であるという報告だけなのですね。

土屋委員：普通に間をあけて、杭をうっていくのだと思いますが。

小倉会長：このような報告をいただいて、データを蓄積するのは大事ですが、地下水影響工事の範囲外であっても規模がわかるような、設計図の内容みたいなものを見せていただけると何か言えることもありますね。できたら、地下水保全会議にも他の資料をいただけるようお願いしたいのですが。

深澤課長：はい、わかりました。

山田副会長：今、整理中なのですが、武蔵野台地の礫層の地図を作っています。そういうものも含めて、どうしてこの範囲なのかわかるような情報を整理したらいいですね。

小倉会長：そうですね。だいぶ色々なデータも出てきていますので、整理していった流れなどに対して判断できるようになるといいですよ。

深澤課長：今日は議題になっていませんが、保全会議のガイドラインをつくっていくなかで資料になると思います。

小倉会長：今後、判断材料にもなりますので、具体的な建築のデータも含めて資料として提出していただきたいと思います。

(4) 地下水（井戸）水位測定結果について

小倉会長：それでは次の議題ですが、事務局から説明をお願いします。

深澤課長：別紙の地下水（井戸）の水位測定結果報告書に基づき説明を行った。（説明内容省略）

小倉会長：ありがとうございます。きれいにまとまっていますね。

- 土屋委員： 9ページ、10ページのデータで水深とありますが、水深というのは3ページの図でいうと、どこの部分になるのですか。
- 山田副会長： 平井さんから聞いたのですが、井戸の底から水面までのようです。
- 小倉会長： 井戸底から水面までの厚さということですね。
- 山田副会長： たまたま井戸の事情でそうなっているみたいですが。
- 土屋委員： これで、TPかAPで表していただくとすごいですよね。
- 深澤課長： 3ページにあります、APを基準にしています。
- 土屋委員： APですか。なにかこだわりがあるのでしょうか。
- 大久保副主査： 下水道のマンホールから測っていて、マンホールの標高がAPで測っているのだからAPということです。マンホールですと、近い所にあつて基準にしやすいということです。
- 山田副会長： そうですか。
- 土屋委員： TPに換算はすぐできますから
- 深澤課長： そうしますと、TPで測ったほうがいいのですか。
- 土屋委員： そうですね。本当はいいですね。
- 小倉会長： 相対的な値は出ているので、今後、資料として換算していくといいですね。せっかく測っていますので。
- 深澤課長： 環境市民会議のほうに伝えておきます。本来、本日の会議に平井代表に出席していただいて、この説明をしていただく予定でしたが都合が合いませんでした。また都合の合うときに出席いただき、意見交換等していただければと思います。
- 小倉会長： そうですね。
- 土屋委員： これを見るとおもしろいですね。東へ行くにしたがつて井戸の標高が下がっていますね。
- 大久保副主査： そうですね。東へ向かつて地形が下がっているのだから、地下水も東に向かつて流れているようです。
- 土屋委員： はい、中央線の北側は仙川に沿って流れていますね。
- 山田副会長： もう少し、井戸の本数が欲しいですね。
今、市は関与していないという話で、市民の力で素晴らしいのですが、継続的なことを考えると、いい形での協働という形をとるといいと思いますが。
- 深澤課長： それについては、環境市民会議では市民団体向けの補助金を受けていて、そこから調査費用などを出しているということですが、その補助金も一定の期限があるということですので、19年度になりましたら費用などについて協議しようという話になっています。ですから、市との関係についても話をしていこうと思っています。
- 山田副会長： 国分寺も市で月1回やっていて、今、東久留米でも市民団体がやり始めたので、何か共通の情報が持てればいいですね。そのためにもTPで表示したほうがいいのではないかと思います。
- 小倉会長： そうですね、比較するという意味でもですね。
市でも大久保さんが毎回立ち合われていて、市が関与していないわけでもな

いですし、全体を考えて将来的にもTP表示であったほうが良いということですね。

深澤課長： はい。

小倉会長： いいデータが出ていますよね。興味のあるデータです。極端に水深は下がっていないですね。

1年間継続して、降水量等との関係が出てくるといいですね。非常にいいデータが出ると思います。

大久保副主査： 夏の渇水期に入ったときにどう変化するのも興味があります。

小倉会長： そうですね。よろしくお願いします。

(5) その他

小倉会長： それでは次に、その他ということですが、何かありますか。

深澤課長： 特にありません。

山田副会長： あの、次の報告事項でとりあげる、環境報告書にも先ほどの水位調査結果が載るようになると思います。

小倉会長： そうですね。

では、次の報告事項にうつりたいと思います。

3 報告事項

(1) 平成17年度版環境報告書について

小倉会長： それでは、お願いします。

深澤課長： (1)について説明を行った。(説明内容省略)

小倉会長： はい、ありがとうございました。地下水位の調査結果も載せていくという方向で検討していただくということですね。

土屋委員： すみません、49ページの下グラフは%表示になっていますが。

小倉会長： これは達成率ですね。

深澤課長： はい。基準に対しての達成率になっていますね。

大久保副主査： 市内の観測井戸で、環境基準値を超えている所があって、数字はそれを示しています。

山田副会長： そこは何かしているのですか。

大久保副主査： 原因がまだはっきりとはわかっていないので、現状のままです。

深澤課長： これは発生源が市外にありまして、対応も東京都と連携しながらやっていますが、難しいようです。

土屋委員： それと、その上のグラフの白抜きの部分がわかりにくいのですが。

天野部長： 印刷の関係でわかりにくくなってしまったようです。

小倉会長： そうですね。今度は網掛けなどで工夫していただくといいかもしれません。

立川主事： はい、すみません。今回は濃く出るようにつくります。

小倉会長： よろしくお願いします。

4 次回の地下水保全会議の日程について

小 倉 会 長： では、次回の地下水保全会議の日程についてですが。

深 澤 課 長： はい。本日で平成 18 年度は終わりになり、次回は 19 年度に入りますが、今年度と同じ、3 回を予定しています。日程については、又メール等で調整させていただきたいと思います。

小 倉 会 長： はい、わかりました。

5 その他

小 倉 会 長： その他ですが、何かありますか。

傍聴人より発言

池田委員の紹介と挨拶

天野部長の退職挨拶

小 倉 会 長： ありがとうございました。

これで閉会します。